

我々は暴政からは、かろうじて逃れたが、自由への戦争は 終わっていない

Covid は偽装した権力掌握である

Paul Craig Roberts / Information Clearing House

January 28, 2022

1月23日、私はこのウェブサイト、Kees Van Der Pijlの新しい本 *States of Emergency* を書評した。Van Der Pijlは、なぜ、どのようにして、偽物の「致命的パンデミック」が、世界的な詐欺に参加して調子を合わせたのかという、非常に多くの人々からの疑問に答えている。彼はこの出来事は、グローバル・エリートによって長い間、計画されていたもので、それは、ビル・ゲイツや、ロックフェラー財団や、Wellcome トラストのような博愛主義者、世界経済フォーラムや、テック企業や、マルチ億万出資者のようなエリート組織、それに NIE のファウチ、CDC、FDA、WHO、製薬会社やロビイスト、そして権力を集中し、グローバル・エリートのルールを守り促進するために作られた、各組織やグループから成っていることを示した。彼らのやり方は、恐怖によって大衆をコントロールし、彼らの声も代替見解も奪うように、条件付けることだった。

私は前からこのような線に沿って考えていた。しかし、ヴァン・デア・ピユルの詳細な人物やグループ像、彼ら間の交流や協力関係については、知識がなかった。彼は我々に物語を与えてくれる。それは壮大な欺瞞と検閲の、手の込んだ練習問題のようなもので、世界の最も著名な医者や科学者をも信用できなくさせ、純粋な虚構を、事実であり公的政策として称揚するものだった。我々はこの『緊急事態の諸相』を自分で読んでみて、真理とは不都合のことであり、ただ一つ自分の支配と権力だけに関心をもつ、誠実さを全く欠いた人々に、我々が支配されているという事実を、受け入れる必要がある。

我々はこの本によって、現実にはどのように物事が動き、どのように決定され、どのように人々のキャリアが作られ、あなたが「物語」に役立つが否かによって、それがどう終わるのか、また FDA、NIH、CDC、WHO のような統制機関が、実は、いかにビッグファーマのために売り買いされているか、いかに政治家の立場が、彼らの政治運動の懐によって左右されるか、なぜ大学やメディアが、プロパガンダ省として、支配エリートとその「物語」のために働かねばならないのか、いかにファウチとビッグファーマが、医学研究者への助成金を通じて、医学ジャーナルの内容をコントロールするのかなどを、理解する必要がある。

ヴァン・デア・ピュルは、薬品産業の研究助成金が、この産業を、多くの論文の共著者にしていると言い、*The Lancet*の収入の半分以上は、彼らの製品を支持する論文のリプリントの、医薬品会社の注文から賄われている、と書いている。ピュルはこう言っている――「20年の経験を持つ *The New England Journal of Medicine* の元編集者によれば、出版された臨床研究の多くは、今や全く信用できなくなった。」

騙されやすい愛国者のアメリカ人で、この本を読む者は眼を開かれ、新しい人間になってしまうだろう。ヴァン・デア・ピュルは、アメリカ人を無関心から救うことのできる本を書いたのだ。

2019年10月、世界の「パンデミック」への開放にわずかに先立ち、起こると予定されたことが、最初、シミュレーションで試された。このときの参加者たちは：ブルームバーグから資金を得ている Johns Hopkins ヘルス・セキュリティ・センター、ゲイツ財団、世界経済フォーラム、CDC、(アメリカ仕込みの) 中国厚生省ヘッド、元 CIA 副局長、ジョンソン&ジョンソン、ファイザー等であった。

参加者たちは、計画された欺瞞が暴かれないようにすることに、第一に心を砕いた。彼らは、社会メディアや、売春新聞 [PCR の常套語] が、この物語をコントロールし、真実を検閲してくれることを当てにした。彼らは、インターネットを完全に閉鎖すべきか否かを考えた。しかし、ツイッターや、フェイスブックや、グーグルは、「物語」に調子を合わせ、「物語」を確かめる情報をインターネットに氾濫はさせるが、真理に対しては疑念を持ち、邪魔をするだろうという結論を出した。

米公衆衛生局の Stephen Redd 提督は、「否定的信念」も持つ者、すなわち「物語」に疑念を抱く者たちは、諜報部に跡を付けさせよと言った。シンガポールの財務大臣は、考え方の違う者は逮捕して、法廷につき出すべきだと言った。中国の厚生省ヘッドは、ウィルスが実験室から始まったことに気づかれないか、非常に気を揉んだ。ジョンソン&ジョンソンは、ワクチン実験での死亡や傷害での、テストの不備に、大衆が気づかないように、抑圧すべきではないかと言った。

参加者たちは、彼らはただ、生殖ゲームをしていただけだったと主張する。しかしこのシミュレーションは、「パンデミック」の開放に先立って、説明をコントロールできるように、手が打たれていたことを証明した。

ヴァン・デア・ピュルの本の研究基盤は膨大であり、その情報は、地球を破壊するほどである。私は後日の論文で、この本に戻るつもりである。しかし私を待っていないで、この

本を買い求め、何度でも読むことをお奨めする。アメリカ市民の自由は、もし人々が自分で知ろうとしないなら、生き残ることはできない。

アメリカ政府が、アラン・グリーンSPANの「市場は自己を規制している」という主張に基づいて、意味のある規制をやめてしまい、反トラスト法の執行をやめたとき、膨大な経済集中が生じ、その富が、公共保健省庁や、ある国家の予算をさえ上回る、個人を産み出した。これが単独の個人に対し、政府に対する途方もない権力を与えた。

ヴァン・デア・ピュルは、2004年以降、ゲイツ財団の、年間の厚生支援金だけでも、WHO（世界保健機関）の年間予算を超えると書いている。ゲイツ財団の役員は、Merck、GlaxoSmithKline、Novartis、Bayerヘルスケア・サービスなど、その株がゲイツ財団によって所有される、会社の役員である。これは富の集中が、政府の政策を超えて、一握りの個人に与えた権力の、ほんのわずかの例にすぎない。

ヴァン・デア・ピュルは、エリートが、その支配を堅固なものにしようと、統制された「パンデミック」を利用したのが、あまりにも野心的だったので、失敗したと考えている。彼の楽観主義が見落としているのは、もう一つの、もっと危険なウイルスが我々に仕掛けられ、そこに生ずる恐怖が、すべての抵抗を萎えさせることである。Covidの試みはほとんど成功した——特に、オーストラリア、カナダ、オーストリア、イタリア、ドイツでは。アメリカでは判断力のある人々によって、またフロリダ州のRon DeSantisのような知事たちによって——。世界の、組織されていない、情報を与えられない国民に、もう一度攻撃が行われるとしたら、彼らは成功するかもしれない…。

彼がそう言うのは、更に致命的なコロナウイルス——すべての治療が禁止されたウイルス——が放たれようとしている、ということなのだろうか？

[訳者 Greatchain 注]

ポール・クレイグ・ロバーツは、かつて、レーガン政権のアドバイザーを務めた学者で、我々のブログでは、何度も、その優れた論文を翻訳紹介している。ここに久しぶりに訳した書評としての論文は秀逸である。ここには、ほとんどの人の知りたかったこと、薄々は感じていたが、はっきりわからなかったことが、簡潔に凝縮して述べられている。

「騙されやすい愛国者のアメリカ人で、この本を読む者は眼を開かれ、新しい人間に変わってしまうだろう。Van Der Pijlは、アメリカ人を無関心から救うことのできる本を書いたのだ。」

ここに言われていることを、私なりに解説してみる：——我々は、自分がどういう世界に生きているのか、ということが、(アメリカ人でも、日本人でも) 自分でよくわからなかった。それがこの本によって、アッと驚くほどよくわかるということである。これは私なりに言えば「憑き物が落ちる」という感覚に似ている。我々にはキツネとか、何か得体の知れないものが憑いていて、悪さをしているのに、それに全く気付かなかった。そして自分を、常識があり、誰にも支配されぬ、独立人だと思っていた。それはそうでもなかった。我々は、この世界と自分自身が、誰に、どう動かされているのかを知らなかった——ざっと言えばそういうことである。

そして、その驚きに続いて起こってくるのは「なんという見事にして愚かなことが、世界規模で、私を巻き込んで起こっているのだろう」という感嘆である。人を騙し、真理を曲げることに、これだけの大規模なエネルギーと時間が、費やされていたことに対する、それは発見の驚きである。PCR が、貴重な本だから何度でも読め、と言っている意味がよくわかる。